

学校だより 椎の苗木通信 3月号



木城の明日を担う心豊かでたくましい人づくり

(木城町教育大綱の基本理念)

木城町立木城中学校
夢・力・花いっぱい

H31年度県立高校一般入学者選抜 検査が行われました

県立高等学校及び県立学校のH31年度一般入学者選抜検査が3月5日(火)・6日(水)に行われました。第1日目は、国語・理科・英語。第2日目は、社会・数学・面接が行われました。本校の3年生も8校で受検しました。入試本番に向けて、努力を重ねてきた成果を発揮しようと、緊張する中でも必死で問題に取り組んでいたようです。3月19日(火)には、合格内定者を含めた合格発表が行われる予定です。全員が志望する学校に合格することを願っています。



スマホ・ケータイ安全教室が行われ

ました

携帯電話・スマートフォンの正しい利用の仕方を理解させるとともに、情報犯罪やトラブルに巻き込まれない・巻き込まないように正しい判断のもと行動できるようにさせるために安全教室を実施しました。今回は、NTTdocomoから講師を招聘して、SNSやコミュニケーションアプリに関連したトラブルの事例やスマホ依存症の怖さなどについてお話をいただきました。オンラインゲームに熱中し過ぎて、親に内緒で課金を繰り返し、数十万～数百万円の請求を受けて



しまうといった他人事ではない事例に驚きの表情を隠せない生徒が多くいました。最後にスマホを利用するときの『ルール』を各自で決めました。

「9時以降は友達に連絡しない」・「ゲームの課金(アイテムやスタンプなどの購入)は保護者に相談してからする」・「食事中はスマホやケータイを使わない」など自分なりの『ルール』を書いていたようです。是非、それぞれのご家庭でどんな『ルール』を決めたのか確認し、決めたことが守れるようにご指導ください。

生徒会主催『送別行事』が行われま

した

卒業を間近に控えた3年生の卒業を祝う気持ちとお世話になった先輩方への感謝の気持ちを込



めて『送別行事』を実施しました。中下生徒会長のあいさつの後、レクリエーションの部がスタートしました。第1種目は、KJグランプリ。木城中に関する○×問題が出題され、全校生徒が解答者となり、クイズバトルを繰り広げました。第1問で全員不正解となるハプニングもありましたが、大いに盛り上がりました。第2種目は、ドッジビーでした。ボールの代わりにスポンジ製のfrisbeeを投げ合う競技でした。最後に1年生、2年生からメッセージに対し、3年生がお礼の言葉を述べ、素晴らしい送別会が幕を閉じました。

3年生の皆さん、いよいよ卒業の日が近づいてきましたね。中学3年間はhowでしたか？今回は文章を一つ紹介します。1、2年生の皆さんも、これまでの中学校生活を振り返りながら読んでみてください。子どもだけでなく、大人にとっても参考になるお話しです。

大きな夢のひとかけらを大切に

宇宙飛行士になるための試験の一つに、絵のない真っ白なジグソーパズルを完成させるというものがあるのだそうだ。

ジグソーパズルは前もって完成した絵が分かっているのだから、「やってみよう」という気にもなるし、だんだん完成に近づいていくと喜びも湧いてくる。だが、すべて真っ白なピースだと形だけが頼りだ。しかも完成図がないのでやる気も起きないし、何を作っているかもわからないので喜びもわからないだろう。

で、「これ、何の為にやるんですか？」と質問した人はまず宇宙飛行士の選抜から外される。そして、「はい、やめてください」という合図のあと、「ここまでしかできませんでしたが、合格ですか？不合格ですか？」と質問する人も落とされる。

どういふ人が宇宙飛行士に適しているかというところ、時間切れで終わった後、「これ、持って帰っていいですか？中途半端で終わると気持ちが悪いので、持って帰って完成させたいんです」という人だそうだ。

宇宙船の中は狭い。しかも、4、5人の仲間と一緒に過ごす。だから協調性が求められる。言われたことを素直に受け止め、あまり余計なことは考えず、淡々と、忍耐強く仕事に取り組める人でないといけないうわけである。

しかし、今日ここで言いたいのは宇宙飛行士の適性の話ではない。ジグソーパズルの奥深い話である。

作家の喜多川泰さんは、著書『賢者の書』の中でこんなたとえ話をしている。ある人がジグソーパズルの1個のピースを手にした。それはシマウマの頭の部分の絵柄だった。次に手にしたピースはシマウマの首の絵柄だった。「これはここだ！」、喜んでそれを頭のピースの横にはめ込む。ぴったり合うと嬉しいので、またその隣のピースを探し求める。

ところが次に手にしたのは黒一色のピース。どこの部分なのか全く分からない。もし完成図が分かっていたら、そのパズルを完成させるのに必要なピースであることは分かるのだが、完成図のないパズルだったら、それがパズルの一部であることすら分からないので、それを大切にしておくこともしないかもしれない。

『賢者の書』に登場する主人公の少年は「賢者」からジグソーパズルの話を教えられる。「大きな絵、つまり大きな夢を思い描く。そしてその夢の実現の為に行動を起こす。行動の結果、手に入るものは失敗でも成功でもない。絵を完成させるために必要なピースの一つである」と。

「1個のピース（行動の結果）は、自らの思い描いた絵を完成させるためにどうしても必要なのだ。絵が完成したときに、あのわけの分からなかったピースがどこでどう使われているのかがようやく分かるんだ。あのつらい経験がここに使われることになっていたんだ。あの失敗がなかったら、ここを埋めることができなかつたんだ、といった具合に」

この本、20代の時に出会った。でも今出会えたことで、こうして多くの人に紹介できる。

『賢者の書』、お勧めの一冊である。あなたの人生に。

（「日本一心を揺るがす新聞の社説 水谷もりひと 著」より）

+++++

人生とは、完成図のないジグソーパズルを組み立てるようなものなのかもしれません。そして、生きていく過程で遭遇するあらゆる体験は—それがどんな体験であったとしても—、その絵を完成させるために必要な一つ一つの大切なピースなのです。

皆さんも、中学時代いろんな体験をしてきたと思います。中には苦しいことや悔しいこともあったかもしれません。しかし、そのどれもが、いつかはそれぞれの夢を実現させたり、その人の人生を完結させたりするために必要な「経験」なのではないでしょうか？そして、それが、「本当にそうだ」と実感できるのは、きっとその絵が完成したときなのでしょう。

「人生には無駄なものなど何もない」という言葉をどこかで聞いたような記憶があります。私たち大人も、まだ自分の絵を完全に描き切っているわけではありません。子どもたちとともに、一つ一つの体験や思い出を大切にしながら、絵の完成をめざして頑張っていきたいものです。